

ミツワデイリー株式会社

2023 年度 環境経営レポート

(対象期間: 2023 年4月1日～ 2024 年3月31日)

本社・神戸工場



岡山工場



作成日 : 2024年9月2日

目 次

項 目	ページ
ごあいさつ	3
環境経営方針	3
組織の概要	4
事業・製品の紹介	4
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	5
主な環境負荷の実績	6
環境経営目標及びその実績	6
環境経営計画の取組結果とその評価	7～10
工場の取組紹介	11
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果, 並びに違反, 訴訟等の有無	11
緊急事態対応訓練	12～13
代表者による全体の評価と見直し・指示	14

ミツワデイリー株式会社 環境経営方針

<環境経営理念>

ミツワデイリー株式会社は、『お客様に安全・安心で美味しい商品を提供し、社会に貢献します』という企業理念をもとにステークホルダーの皆様が笑顔になれるよう、商品・サービスを継続的に改善いたします。また、自然環境や資源の保護に配慮し、持続可能な社会の実現に向け取り組みます。

<環境への基本方針>

1. 働きやすい職場づくりを進める中で、創意工夫による衛生管理の徹底と効率的な生産を目指して、継続的な改善を推進します。
2. 持続可能な社会の実現を目指し、二酸化炭素や廃棄物の削減・省エネ・省資源等を通じて環境負荷の低減に努めます。
3. 法令等を遵守するとともに、社会のニーズに対応した正確な情報を発信し、ステークホルダーの皆様の信頼や要望に応えます。
4. HACCPによる衛生管理の徹底を行います。

<環境保全への行動指針>

1. 電力、ガスの使用量削減による二酸化炭素の削減
2. 廃棄物排出量（食品廃棄物等は除く）の削減
3. 食品廃棄物の発生抑制、食品リサイクル率維持向上
4. 節水(水道水、工業用水)による水使用量削減
5. グリーン(再生利用品)の購入
6. 洗浄剤や殺菌剤の適正な管理
7. HACCPによる衛生管理の強化
8. 工場の外周清掃による環境改善活動

制定日：2019年10月8日

改定日：2021年2月6日

改定日：2021年6月22日

代表取締役 豊田 茂行

□組織の概要

更新日：2024年8月15日

- (1) 名称及び代表者名
ミツワデイリー株式会社
代表取締役 豊田 茂行
- (2) 所在地
本社・神戸工場 兵庫県神戸市東灘区深江浜町38番地
岡山工場 岡山県浅口市金光町佐方21-2
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 取締役 山口 雅巳
担当者 業務部 墨山 剛史
担当者 業務部 富倉 正幸
- (4) 事業内容
コンビニエンスストア向けの調理麺・軽食・惣菜などの製造

- (5) 事業の規模
売上高

100.7 億円

	本社・神戸工場	岡山工場	合計
従業員 名	257 名	157 名	414 名
延べ床面積 m ²	6920.49 m ²	4499.27 m ²	11419.76 m ²

- (6) 事業年度 4 月 1 日 ～ 3 月 31 日

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名： ミツワデイリー株式会社
対象事業所： 本社・神戸工場
岡山工場

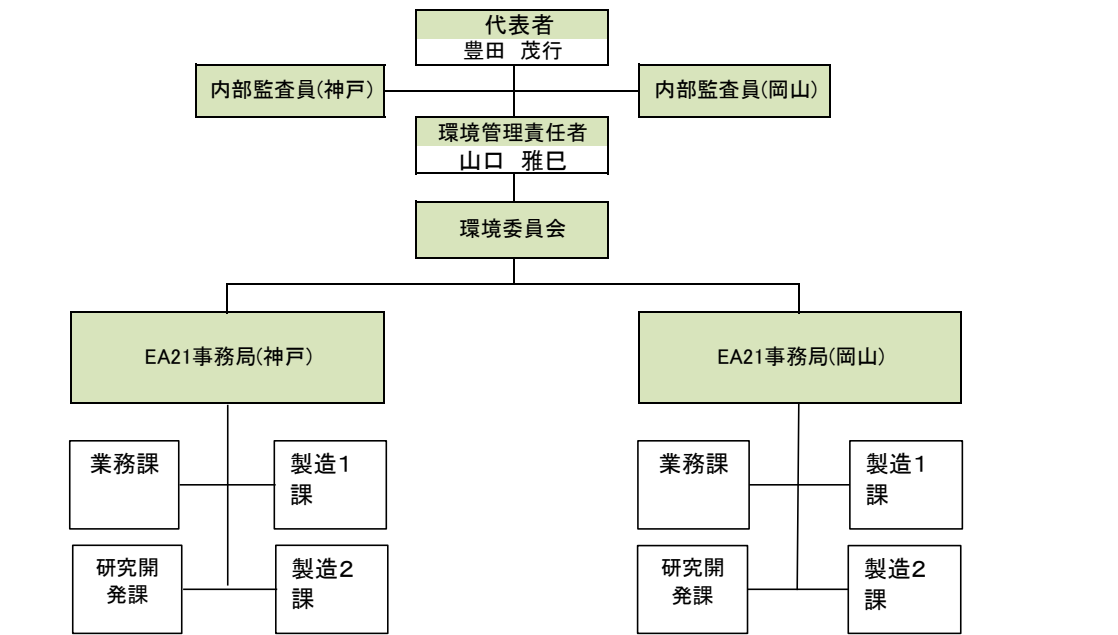
対象外： なし
活動： コンビニエンスストア向けの調理麺・軽食・惣菜などの製造

□事業や製品(商品)の紹介

当社では、調理麺・軽食・惣菜など、お客様のニーズに合わせた様々な商品をコンビニエンスストア向けに開発・製造しています。

近畿地区のお客様には、神戸工場で製造した商品を、
中国地区のお客様には、岡山工場で製造した商品をお届けしています。





	役割・責任・権限
代表者 (代表取締役)	・環境経営方針を策定する ・環境経営システムを承認する ・環境管理責任者を任命、環境保全活動の取り組みに関する責任及び権限の付与 ・環境マネジメントシステムの実施に必要な資源(人材、資金、技術等)の提供 ・内部環境監査長の任命 ・代表者による全体の評価と見直し、指示
環境管理責任者	・環境経営目標及び環境経営計画等を承認する ・環境保全活動の取り組みを評価する ・環境経営全般の運用を監視する ・エコアクション21事務局の運営の指示をする ・代表取締役へ運用状況等を報告する
EA21事務局	・環境経営目標及び環境経営計画を策定する ・教育訓練、目標計画を策定する ・環境経営システムの運用を推進する ・環境負荷となる活動を特定する ・各種報告書を作成する ・条例、法令を管理及び文書及び記録を管理する ・外部からの問い合わせに対応する ・是正、予防措置を検討する ・環境上の緊急事態への準備と対応策を策定する ・内部監査年度計画を策定する ・部署目標達成手段を策定し実行した場合は、責任者へ報告する
環境委員会	・部署のすべての従業員に対して教育・訓練を実施する ・進捗状況の確認及び記録を当該上表の部署責任者に報告する
部門長 工場長	・環境経営方針、環境経営目標及び環境経営計画を従業員に周知する ・環境経営目標や環境経営計画を踏まえて策定された目標達成手段の確認と、推進状況の把握を行う ・部署に関連する法規制等を遵守する ・部署推進者を任命する
内部監査チーム	・内部監査の実施、報告する
全従業員	・EA21事務局及び当該部署責任者の指示に基づき行動する

□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	5,455,341	5,515,197	5,541,337
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	t	381	376	374
産業廃棄物排出量	t	1,696	1,582	1,672
食品廃棄物				
発生量	t	961	877	950
発生抑制量		0	0	0
再生利用量		961	877	950
熱回収量		0	0	0
減量量		0	0	0
再生利用以外の量		0	0	0
廃棄物処理量		0	0	0
食品再資源化実施率	%	100%	100%	100%
水使用量	m ³	321,115	340,548	376,487

※電力二酸化炭素排出係数 0.318 kg-CO₂/kWh

※蒸気二酸化炭素排出係数 0.095 kg-CO₂/kg

※神戸工場では一般廃棄物としての排出はない。

※食品残渣は、肥料・飼料、廃油の再生を行っています。

関西電力2019年度0.318kg-CO₂/kWhを使用しています。

甲南ユーティリティ2019年度0.095kg-CO₂/kgを使用しています。

□環境経営目標及びその実績

項 目	年 度	基準値	2023年		評価	2024年	2025年
		(基準年)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	3,355,220	3,311,602	2,897,233	○	3,308,247	3,304,891
	基準年度比	2018年	98.7%	86%		98.6%	98.5%
	原単位 kg-CO ₂ /百万円	288.1	284.4	287.6	×	284.071	283.783
都市ガスによる二酸化炭素削減(神戸)	kg-CO ₂	226,137	223,197	116,584	○	222,971	222,745
	基準年度比	2018年	98.7%	52%		98.6%	98.5%
	原単位 kg-CO ₂ /百万円	30.7	30.3	19.5	○	30.272	30.241
LPGによる二酸化炭素削減(岡山)	kg-CO ₂	2,014,093	1,987,910	1,691,615	○	1,985,896	1,983,882
	基準年度比	2018年	98.7%	84%		98.6%	98.5%
	原単位 kg-CO ₂ /百万円	470.6	464.4	412.7	○	463.971	463.501
蒸気による二酸化炭素削減(神戸)	kg-CO ₂	1,331,900	1,314,585	736,630	○	1,313,253	1,311,922
	基準年度比	2018年	98.7%	55%		98.6%	98.5%
	原単位 kg-CO ₂ /百万円	180.8	178.5	123.3	○	178.295	178.114
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	101,696	100,374	99,275	○	100,273	100,171
	基準年度比	2018年	98.7%	98%		98.6%	98.5%
	原単位 kg-CO ₂ /百万円	8.7	8.6	9.9	×	8.610	8.601
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	7,029,046	6,937,668	5,541,337	○	6,930,639	6,923,610
上記原単位合計	kg-CO ₂ /百万円	978.9	966.2	853.0	○	965.2	964.2
廃プラの削減	t	313	309	141	○	308	308
	基準年度比	2018年	98.7%	45%		98.6%	98.5%
動植物性残渣の削減	t	1,403	1,384	928	○	1,383	1,381
	基準年度比	2018年	98.7%	66%		98.6%	98.5%
食品廃棄物の発生抑制・再生利用率の向上	自主目標		95%	100%	○	95%	95%
	食り法目標		80%	100%	○	80%以上	80%以上
水道水の削減	m ³	158,161	156,105	149,327	○	155,947	155,789
	基準年度比	2018年	98.7%	94%		98.6%	98.5%
	原単位 m ³ /百万円	13.6	13.4	14.8	×	13.391	13.377
工業用水の削減(神戸)	m ³	318,631	314,489	227,160	○	314,170	313,852
	基準年度比	2018年	98.7%	71%		98.6%	98.5%
	原単位 m ³ /百万円	43.3	42.7	38.0	○	42.654	42.610
化学物質の適正管理	行動目標 (次項による)						
グリーン購入の推進	行動目標 (次項による)						

※ 電気使用量の削減の目標管理のCO₂排出係数は、2021年度の採用係数(0.318kg-CO₂)とした。

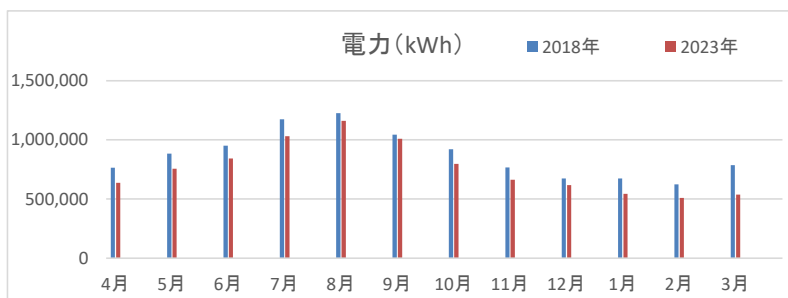
※ 原単位定義 1kgあたりのCO₂排出量 / 売上高(百万円)

□環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

数値目標:○達成 ×未達成

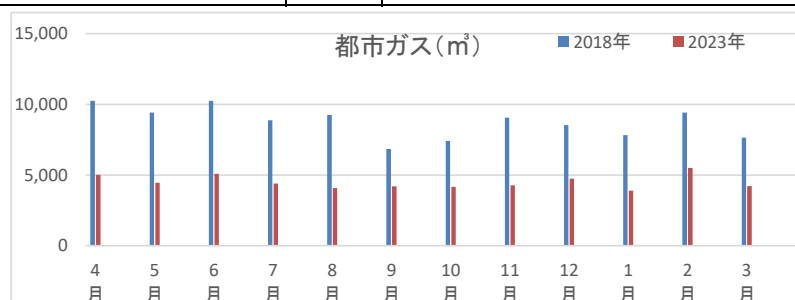
活動:◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	岡山工場の増加分を、神戸工場の削減によりカバーしている状況。 神戸工場は引き続きチラー水の適正化を進める。 岡山工場では原因と思われる部分をひとつづつ潰していくことが必要。
・(全社)エアコンの設定管理(夏季24℃以上、冬季22℃以下)	○	
・(全社)不要時、作業終了後の消灯。	○	
・(岡山)稼働していないコンベアの停止。	○	
・(岡山)遮熱塗装の実施	○	



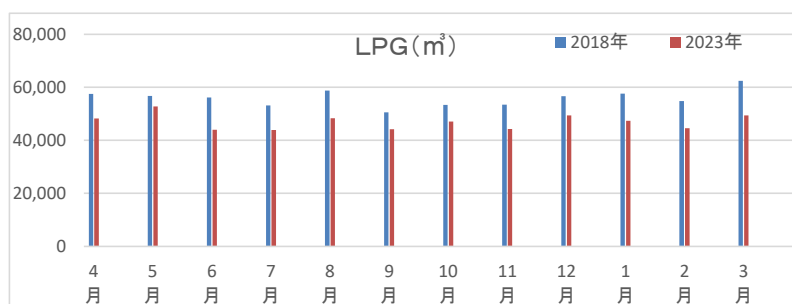
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2018年	764,622	884,223	951,969	1,175,146	1,226,243	1,044,548	920,606	766,411	674,019	674,019	624,021	786,944
2023年	636,756	757,032	843,307	1,030,823	1,162,182	1,009,007	796,510	662,746	618,610	545,223	510,498	538,104

都市ガスによる二酸化炭素削減(神戸)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	神戸工場のみ: 継続取組のかき揚げ出来高重量伝達を常に行い重量のブレを直すことで使用量を削減する取組を行った。
・(神戸)かき揚げの確認方法の運用	○	



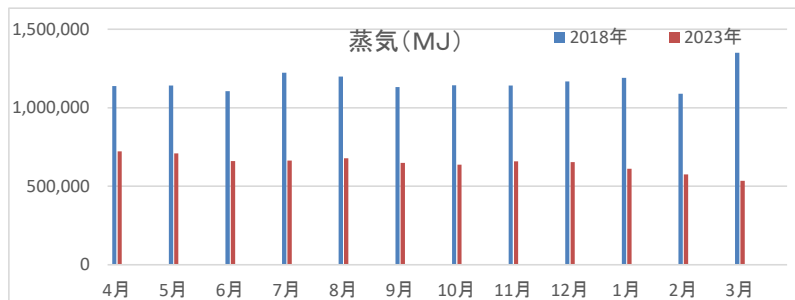
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2018年	10,248	9,406	10,240	8,861	9,242	6,838	7,400	9,053	8,525	7,824	9,414	7,642
2023年	5,017	4,457	5,077	4,401	4,060	4,191	4,163	4,277	4,733	3,880	5,496	4,222

LPGによる二酸化炭素削減(岡山)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	岡山工場のみ: 製造機器も電化傾向があり、LPガスの使用量は減少傾向にある。 とはいえボイラー等の利用もまだまだあるため、稼働調整、排熱の再利用など引き続き取り組む必要がある。
・(岡山)生産機器類のメンテナンス	○	
・(岡山)ボイラー運転時間調整	○	
・(岡山)茹で槽への蒸気使用時間の調整	○	



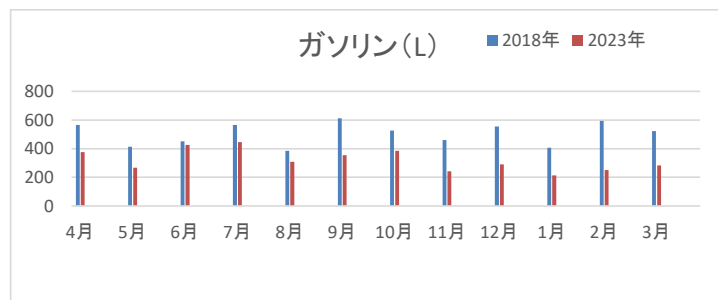
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2018年	57,529	56,752	56,148	53,153	58,808	50,582	53,373	53,424	56,622	57,626	54,851	62,497
2023年	48,275	52,828	44,031	43,903	48,397	44,202	47,135	44,342	49,460	47,361	44,563	49,376

蒸気による二酸化炭素削減(神戸)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	神戸工場のみ:
・(神戸)スチームトラップ入替	○	茹で:スチームトラップを変更。ディスク型⇒フリーフロート型へ変更
・(神戸)スチームトラップの保守	○	することで省エネ性能向上に取り組むことで基準年である18年度比較では-31.8%削減しています。

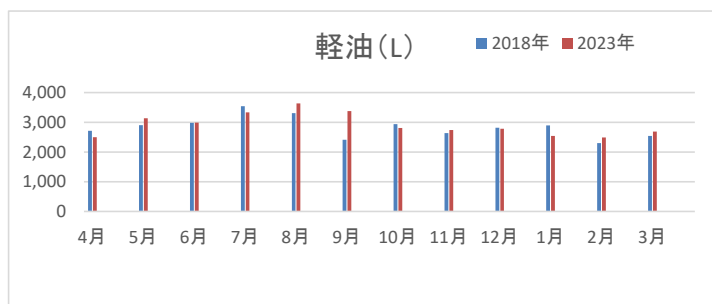


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2018年	1,138,000	1,141,000	1,106,000	1,223,000	1,198,000	1,131,000	1,143,000	1,142,000	1,168,000	1,190,000	1,090,000	1,350,000
2023年	722,000	709,000	660,000	663,000	679,000	649,000	638,000	659,000	654,000	612,000	575,000	534,000

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	神戸工場の送迎用バスの増便により軽油使用量が増加している。
・(全社)エコ運転の推進	○	神戸工場、岡山工場共に会議等の外出が減少している為ガソリン使用量は減少している。
・(岡山)お申し出の削減	○	
0		
0		

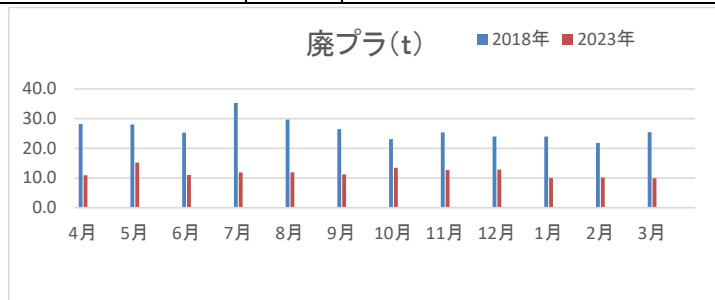


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2018年	565	413	451	566	385	612	525	460	554	407	595	522
2023年	376	267	426	446	308	355	386	242	291	213	251	283



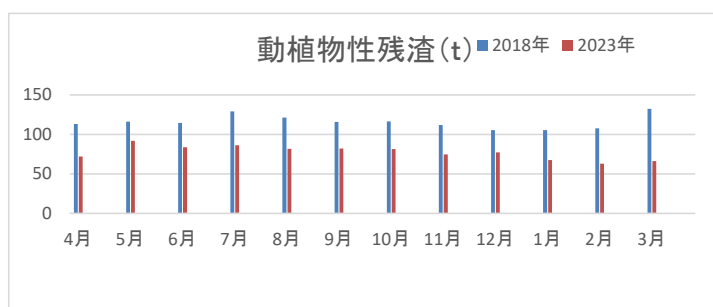
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2018年	2,710	2,905	2,981	3,539	3,306	2,411	2,934	2,637	2,815	2,896	2,296	2,542
2023年	2,497	3,138	2,989	3,336	3,636	3,379	2,811	2,738	2,785	2,542	2,486	2,685

廃プラの削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	岡山工場のみ： 全体的には目標を達成できた。 引き続き終売に合わせた包材等の在庫調整を実施する。 3月から廃プラスチックを再資源化できる業者との取引を進める。
・(岡山)終売情報を製造部門と速やかに共	△	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2018年	28.2	28.0	25.2	35.3	29.7	26.5	23.1	25.3	23.9	23.9	21.8	25.4
2023年	11.0	15.1	11.0	11.9	11.9	11.2	13.4	12.7	12.9	10.0	10.2	9.9

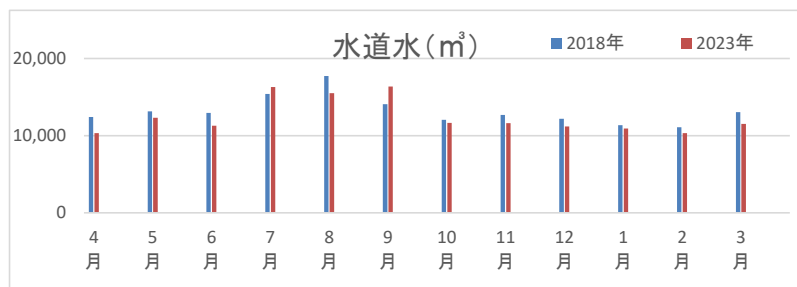
動植物性残渣の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	各部門とも製造時の廃棄物削減に取り組んだ。まだ終売等による廃棄原材料の削減に取り組み、目標を達成した
・(神戸)野菜在庫調整による期限切れ削減(もやし・玉葱)	○	
・(神戸)返品物の削減(仕分・トッピング)	○	
・(神戸)商品別見込み製造の調整	○	
・(神戸)高台車の転倒削減	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2018年	113	116	114	129	121	116	117	112	106	106	108	132
2023年	72	92	84	86	82	82	82	75	77	68	63	66

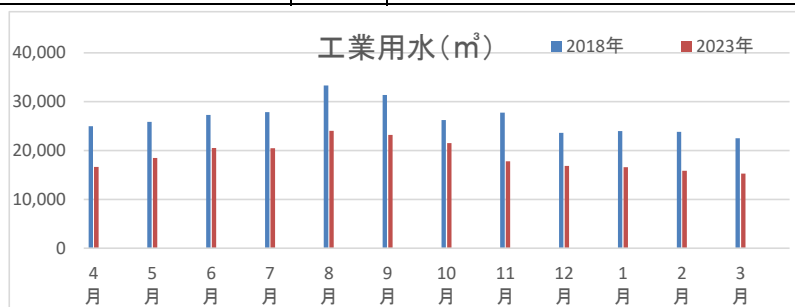
食品廃棄物の発生抑制・再生利用率の向上	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	各部門とも食品廃棄物の発生抑制・再利用に取り組んだ。 神戸工場では、野菜くずの脱水により、岡山工場では生ごみ処理機の活用により発生抑制に取り組んだ。 また、飼料、肥料への再生利用に継続的に取り組んでいる。
・(神戸)下処理野菜端材、テトラ包材廃棄	○	
・(神戸)安定供給による準備量削減	○	
・(神戸)配合パターン増加によるバッチ回	○	
・(神戸)野菜ゴミ脱水	○	
・(岡山)堆肥、飼料化により100%を目指	○	

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	神戸工場では4階で使用する水道水を工業用水へ切り替えた(2020年7月)事により使用量の削減ができています。岡山工場では冷却水を回収、ろ過してトイレの洗浄水として利用し、水道水の削減に取り組んでいる。 現状では目標は達成しているが前年度より使用量が増加しており
・(岡山)清掃・洗い物時の、水の出っぱなしをなくす。	○	
・(岡山)不必要な水の出っぱなしをなくす。	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2018年	12,408	13,156	12,954	15,419	17,744	14,075	12,069	12,692	12,192	11,343	11,076	13,033
2023年	10,318	12,311	11,281	16,309	15,508	16,378	11,670	11,617	11,188	10,918	10,324	11,507

工業用水の削減(神戸)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	神戸工場のみ: 茹で:各ラインの適正チラー量を最終品温(10.0℃以下)を見て毎日計測しチラー水の適正使用量を把握することによる工業用水の削減に取り組み、基準年である18年度比較では-28.7%削減しています。
・(神戸)チラー水適正使用量調整	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2018年	24,985	25,852	27,309	27,882	33,334	31,360	26,214	27,757	23,615	24,004	23,801	22,518
2023年	16,631	18,468	20,517	20,468	24,039	23,203	21,507	17,780	16,847	16,575	15,850	15,275

化学物質の適正管理	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・(岡山)これまで通り最新版SDSの確認、化学物質に 関わるリスクアセスメントの実施管理等を行なう。	○	PRTR物質の対象が拡大されたこともあり、管理を徹底する。

グリーン購入への取組	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・(全社)環境対応備品購入及び見直し	○	神戸工場、岡山工場共にコピー用紙は100%グリーン商品で購入しており、また環境対応商品についても環境対応商品が発売になっていないか見直しを行う。

工場取組紹介

受水槽の遮熱塗装



排水熱回収器



外周清掃



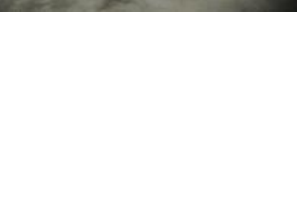
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

適用される法規制		適用される事項		神戸工場	岡山工場
廃棄物処理法	産業廃棄物			○	○
食品リサイクル法	食品廃棄物			○	○
食品ロス削減推進法	食品廃棄物			○	○
騒音規制法	条例による特定施設			-	○
振動規制法	条例による特定施設			-	○
下水道法	排水処理施設			-	○
水質汚濁法	煮湯設備			○	○
省エネ法	エネルギー原油換算1500kl/年以上			○	○
建築物省エネ法	条例による特定施設			-	○
温暖化対策推進法	エネルギー原油換算1500kl/年以上			○	○
フロン排出抑制法	業務用空調機・冷凍庫・冷蔵庫			○	○
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR)	PRTR物質1 t 以上			-	-
労働安全衛生法	特定事業所			○	○
自動車Nox・PM法	排気ガス規制の適合車			○	-
消防法 (危険物)	危険物の保管			-	-
家電リサイクル法	再商品化に必要な料金の支払い			○	○
グリーン購入法	グリーン商品			○	○
顧客要求事項				○	○

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
食品リサイクル法の事業者ごとの基準実施率は達成しています。
なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

緊急事態対応の試行・訓練

様式11-02 緊急事態対応訓練記録（神戸）（11. 環境上の緊急事態への準備及び対応）

緊急事態の想定火災発生	
■実施日： 2024年3月26日、2024年3月29日	■実施場所：工場全体
■参加者： 全従業員(アルバイト、派遣社員含む) ※248名	
■実施内容： ☒ 通報訓練 ☒ 消火訓練 ☒ 避難訓練 昼勤(2階エプロン乾燥室)と夜勤(2階番重洗浄室)に分けて部門責任者もしくは労働安全衛生委員が主となり以下の訓練を実施した。	
■評価： 火災箇所に合わせた避難経路で避難できていた。 非常用ライトを使用した事で確認の際に機械の裏や電気が点いていないところでもしっかりと確認する事ができていた。	手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし
■実施状況の様子	
	

緊急事態対応の試行・訓練

様式11-02 緊急事態対応訓練記録（岡山）（11. 環境上の緊急事態への準備及び対応）

緊急事態の想定：火災発生時の避難訓練及び消火訓練・通報訓練			
■実施日：2024年 3月21日（金）11：00		■実施場所：工場各階から集合場所へ（トラックヤード）	
■参加者：日勤当日出勤者（36名）休日人員については、避難訓練・消火訓練実施記録にて情報共有を行い周知しました。			
■実施内容： ■避難訓練 ■消火訓練 ■通報訓練 ：避難訓練、普段からの避難経路の確認を行なっておく事。避難時は慌てず落ち着いて行動する事が大事。非常灯設置場所確認（ランタン・ヘッドライト・足元センサー付きライト）：消火訓練、消火器の使用説明を行う。安全ピンを抜く、ホースを火元に向ける、レバーを握る、レバーを握る際は指を挟まない様に注意。参加者2名に代表してもらい火元の的に向け消火訓練を実施。通報訓練、事務所で119番通報メモを使用して実践訓練を実施。避難経路の周知確認、消火方法の理解したことがわかり、効果があることが確認できた。			
■評価： 避難経路に沿って誘導を行い、避難口より外への避難を実施した。火災発生、避難放送開始から集合し点呼確認までの所要時間2分43秒、スムーズに避難でき効果があることが確認できた。		手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし	
■避難実施状況の様子			
			
			
			

□代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2024年9月2日

- (1) 全体評価
EA21の継続した取り組みで、環境マネジメントの仕組みが定着してきている。
- (2) 見直しの結果
エコキュートの導入、遮熱塗装の実施、また廃棄物の減量や飼料への再生利用、フードバンクへの寄贈など継続して取り組んでいる。
CO2排出量は、基準年度比での目標は達成できている。
しかしながら、
電気使用量は前年度比で減少しているが、工場別では神戸工場は減少、岡山工場は増加。
水道使用量は前年度比で増加しており、工場別でも神戸工場、岡山工場共に増加。
の様に、個別に取り組むべき事項がある。
今後も引き続き環境経営目標に向け、従業員全員参画で取り組み致します。全体評価（活動実施期間2023年4月～2024年3月の評価）
エコアクション21も取得し5年目となり、環境マネジメントのPDCAを回すことで環境に対する意識も向上している。

環境経営方針	☒ 変更なし	☐ 変更あり
環境経営目標・計画	☒ 変更なし	☐ 変更あり
実施体制他	☒ 変更なし	☐ 変更あり

□各部門からでた次年度の取り組み

【環境活動への取り組み】

(CO2排出量)

- ・不必要な時は消灯する
- ・メンテナンスの強化
- ・ヒートポンプ導入(神戸)
- ・熱交換器導入(神戸)
- ・エコ運転の推進
- ・生産性の向上
- ・製造作業の精度向上
- ・配管の蒸気他漏れ箇所修繕

(廃棄物の排出量)

- ・製造工程確認による歩留まり管理の徹底
- ・見込み製造数の精度向上
- ・システム化によるミス防止

(水使用量)

- ・流量計を用いて各ラインデータ収集し活用(神戸)
- ・垂れ流しをすることなく節水を徹底

(化学物質使用量)

- ・PRTR物質の管理徹底

(グリーン購入)

- ・消耗品の購入時にはグリーン購入に配慮する

(緊急事態訓練)

- ・火災、油漏れの訓練をすることで、素早く行動できるようにする

【経済活動への取り組み】

- ・業務の実施方法を標準化し作業ミスの防止に努める
- ・コストを把握し時間や行程の効率化に努める

【社会活動への取り組み】

- ・環境関連法規を遵守する
- ・事業所周辺の環境保全対策の推進(ゴミ拾い)
- ・景観、騒音、振動、悪臭に配慮する
- ・フードバンクへの寄贈